

定ヲ要求シテ居ルガ、之レハ餘リニ過大デアルト、及支那側ハ協定案第三條及第二附屬書ヲ受諾スベキデアル、即チ「ランブソン」公使九日ノ宣言案ニ同意スルカ、又ハ此宣言案ヲ取止メテ單ニ第三條丈トスルカノ一ヲ擇ブベキデアルト云フコトニ歸着スル。依ツテ筆者ハ幾分曲解デハアルガ。自分ノ入手シテ居ル電報ニ從ヘバ、四月十三日ノ上海専門委員會デ、右第一ノ問題ハ纏マル氣運ニ向カツタトコトダガ、之レハ全ク「テクニツク」ノ問題ダカラ、現地デ研究スレバ必ズ解決ノ光明ヲ見ルコトガ出來ルト思フ、一體其同文電報ハ何日ニ發送サレタモノカト聞イタラ、「サ」外相ハ其日附ヲ見ナガラ何ノ返事モシナカツタ、依ツテ多分十三日前ニ發電サレタモノダト想像シタガ、此會見後間モナク開カレタ十九人委員會デ、「サ」外相ガ第三條ノ方ノコトハ披露シタガ、第一條ニ關シテハ、十三日迄上海ノ小委員會デ之レヲ研究シテ居タトノミ述ベタトノコトヲ聞テ、此想像ノ誤ツテ居ラナカツタコトヲ確認シ得タ。

第六章 上海事件ト聯盟 (二)

十九人委員會ト其ノ後ノ經過

昭和七年四月十六日朝開カレタ十九人委員會ノ經過ヲ、同日午後「ドラモンド」事務總長ハ筆者ニ傳ヘタ。其要領ハ委員會ハ上海停戰交渉今日迄ノ協定事項ガ總テ三月四日ノ總會決議ニ合致シテ居ルコトヲ認メ、日本軍ノ租界内撤收期限問題ニ付テハ、寧ロ「ランブソン」宣言案ヲ廢シテ第三條ノミトシ、安全其他事態ノ改善等ヲ觀測スルノ任務ハ、第四條等ニ依リ共同委員會ノ行動圈ダト思ハレルカラ、協定案ニハ何等新ナル追加又ハ註釋等ヲ加ヘズ、簡單ニ撤收期限ニ關スル「ラ」案ヲ全廢シテ差支ナイガ、出來得レバ共同委員會ノ成立後、同委員會ヲシテ毎月一回位聯盟ニ現地ノ狀況ヲ報告セザル様ニ仕度イト云フニ意見ガ纏マツタトノコトダ。「ド」總長ハ以上ノ話ヲシタ後、就テハ日本政府デモ右報告ヲ出スコトニ同意サレタイト述べタカラ、筆者ハ自分限リノ考デハ、日本ガ強テ反對スルトモ思ハヌガ、十九人委員會ハ如何ナル形式デ右ノ意嚮ヲ表示スル積デアルカト質問シタラ、事務總長ハ十九人委員會ハ上海停戰交渉今日迄ノ成果ハ、三月四日ノ總會決議ニ合致スルコトヲ認ムルガ故ニ、速ニ上海ニ於テ會議ヲ再開シ、協定ニ到達スルヲ容易ナラシムル様、其出先代表者ニ電報方關係四國ニ請求スルト同時ニ、愈々協定ノ調印終リ、共同委員會成立スレバ、同委員會ヨリ毎月一回狀況報告ヲ聯盟ニ提出センコトノ希望ヲ表明スル積リデ、顔支那代表ニ對シテハ、最

早之レ以上取ルベキ手段ナシトノ最後の警告ヲ與ヘタカラ、日支兩國ノ承諾ガ來レバ、右ノ決議案ヲ作ル爲メニ今一度會合シ、之レデ支那ノ要求ニ依リ開催シタ十九人委員會ハ其仕事ヲ終ハリ、當面ノ上海問題ハ解決サレタコト、ナル次第ダト説明シタ。事務總長ハ「イマンス」議長席デ、筆者ノ行ク前顔ト話シテ居タガ事務總長ノ右ノ通報ニ接シタ筆者ハ、事態ガ豫想以上ニ好轉シタノヲ知ツテ、非常ナ愉快ト満足トヲ感ジタ。

筆者ハ四月十七日朝約ニ從ヒ「イマンス」議長ヲ訪問シタラ、氏ハ前日ノ十九人委員會ノ模様ヲ説明シテ吳レタ、其大部分ハ事務總長ノ話ト同様ダカラ、重複セヌモノヲ記セバ、「イ」議長ハ委員會デ日支兩國ノ提出ニ係ル書類ノ摘要ヲ披露シタ後、最モ問題ト成ツテ居ル日本軍ノ撤收期限ニ關シテ、其長短ヲ壽府デ判斷スルノハ不可能ダト述ベタラ、委員會ハ一同之レニ共鳴シタガ、日本軍撤收可能狀態ノ存否ヲ如何ニシテ決定スルカノ點ニ付相當議論ガアリ、當事國ノ一方丈ニ其判定ヲ委ヌルノ不合理ナルコトニ付テハ各委員皆同感デアツタ、然ルニ共同委員會ノ權限ハ協定案第四條及第四附屬書ニ規定シテアルカラ、夫レデ充分ダトノ意見ガ多數ヲ占メ、中ニハ日支兩國委員ヲ本件審議ノ場合ニ限リ除外スベシト主張スル者モアツタガ、之レハ不成立ニ終ツタ、但シ豫期セヌ重大事ガ突發シタ場合ニハ、兩當事國ハ何時デモ聯盟ニ之レヲ通告シ得ルノ自由ヲ認メタ、ト云フノデアアル。依テ筆者ハ今朝ノ新聞紙ニ依レバ、十九人委員會ハ上海ノ共同委員會ニ撤收時期ノ決定ヲ委任スル意嚮アルガ如ク見受ケラル、ガ、決議文トシテハ如何ナルモノヲ豫想サレ居ラル、ヤ伺ヒタシト述べ、事務總長ノ考ト一致シテ居ルヤ否ヤヲ確メント試ミタ、「イ」議長ハ右ニ對シ前ニ云

フタ通り日本軍ガ撤收シ得ルヤ否ヤノ判斷ヲ當事國ノ一方ノミニ委ヌルコトハ出來ヌ、然ルニ協定案第四條等ニテ共同委員會ノ權限ガ規定サレテ居ル故、同委員會ニ之レヲ一任スルト云フガ如キ形ヲトセバ其カラント思フト答ヘタカラ、筆者ハ斯クノ如キ形チデハ歸スル所ハ或ハ同一カモ知レヌガ、日本ノ感情ガ害セラル、ヲ疑ハヌ、元來本件ニ關シテハ支那側ノ執拗ヲ要求ガアツタ爲メ、日本ハ「ランブソン」案ノ如キ宣言ヲ爲スノニ同意シタノデ、之レヲ削除スルニ少シモ異存ハナイト確信スルガ、共同委員會ノ權限ニ付十九人委員會ガ爲スベキ意思表示ノ態様如何ハ頗ル機微ノ問題デ、餘リニ立入ツタ表示ノ仕方ヲスルト、思ハヌ障害ニ逢着スルノヲ虞レル、就テハ解釋メキタル形式ヲ探ラズ、簡單ナ表示ニ止メルノガ得策ダト述べ、種々意見交換ノ末、「イ」議長ハ然ラバ條文ノ文句其儘ヲ引用シテ之レヲ確認シタ上、此共同委員會アラバ充分ダト云フ様ニスレバ宜シカラント答ヘ、次デ昨日事務總長ト一所ニ顔代表ニ會見シタガ、其際同人モ結局政府ニ請訓スルヲ約シ、自分ハ之レデ支那側モ停戰協定ニ調印シ易ク成ツタコト、考ヘテ居ルガ、小國連ハ昨日ノ委員會ヲ秘密會トシタコトニ頗ル不滿デアツタ、然シ兩當事國カラ提出サレタ機密文書ノ關係ヨリ云フモ、又事ヲ纏メル爲メニモ、公開ト云フ譯ニハ行カナカツタノデアアルガ、委員會ノ空氣ハ右ノ通りデアアルシ、顔代表ハ是非公開ノ席上デ意見ヲ開陳シタイト云フテ居ルカラ、其内ニ公開委員會ヲ催スコトヲ餘儀ナクサレルカモ知レヌト附ケ加ヘタ、筆者ハ顔代表ガ意見ヲ開陳スレバ、之レニ刺戟サレテ種々論議ヲ交ユルモノモ出ヅベク、右ハ議長ガ昨日來筆者並ニ顔ト内談シテ事ヲ纏メントシツ、アル精神ト大ニ矛盾スル許リデナク若シ假リニ日本ガ決議案ニ關スル議長ノ提議ニ同意シタ場合、日本トシテハ最早委員會デ云フコトハ一ツモ

無イカラ、之レニ列席スル必要ヲ認メヌト述ベタラ、議長ハ夫レデハ人氣ニ障ルカラ是非出席シテ欲シト懇請シテ止マヌノデ、筆者ハ假令何人カラ參列サセルトシテモ、或ハ全然發言セヌカモ知レヌト答ヘ、繰返し公開委員會ノ不得策ナ所以ヲ指摘シタ。

斯クノ如ク十九人委員會ノ空氣ハ最初甚ダ穩健デ、是レナラ上海事件モ無事ニ片付クト相當樂觀シタ、然シ前記ノ事務總長及議長ノ説明モ捻ネクレバ種々日本ノ氣ニ入ラヌコトガ出テ來ル、果シテ東京カラ細カイ注文ノ電報ガ來タ位ダカラ、マシテ支那ガ之ニ満足シナカツタノハ云フ迄モ無イコトデ、其暗中飛躍ノ結果カ否カハ知ラヌガ、十八日ニ開カレタ十九人委員會デハ、議論百出シ、議長ガ前掲ノ趣旨デ起草シタ決議案ハ到底其儘通ル見込ガナク、各員勝手ノ提案ヲシタ爲メ、終ニ收拾スルコトガ出來ズ、九名ヨリ成ル起草委員會ヲ設ケテ、各意見ヲ取捨按排サセルニ決シタトノコトデアル。

此四月十八日ノ十九人委員會デ「ベネシユ」外相ガ重要ナ役割ヲ演ジタトノコトヲ耳ニシタカラ、筆者ハ十九日早朝同外相ヲ訪問シテ其經緯ヲ尋ネタ處、昨日晝過ギ瑞典代表ノ主唱デ小國側九人ガ會合ノ上、議長作成ノ決議案ニ付意見ノ交換ヲシタラ、種々ノ案ガ出タノデ、亂雜ナガラ自分デ之ヲ取纏メ、同日ノ十九人委員會ニ披露シタ、委員會デハ決議中ニ三月四日ノ決議ノミナラズ十一日ノ決議ヲモ引用スベキダトノ意見ガ勝ヲ制シタト云フタカラ、筆者ハ語ヲ挿ミ、十一日ノ決議ノ時日本ハ棄權シタガ、此棄權ガ不同意ノ意思表示デアアルコトハ何人モ承知ノコトデ、之ヲ引用スルノハ日本ニ對スル挑戰ニ外ナラヌカラ、斯クノ如キコトハ須ク避クベキデアルト述ベタラ、「ベ」外相モ之ヲ諒トシタガ、氏ハ語ヲ次ギ委員會ニ於ケル議論ノ焦點

ハ議長ノ原案ニ無カツタ問題即チ日本軍撤收期限ノ問題デ、極端派ハ壽府デ期限ヲ定メ、其基礎ニ依リ上海ニ於テ交渉セシムベシト熱心ニ主張シタガ、「サイモン」外相極力之ニ反對シ、自分モ亦極端意見ニ反對ダツタカラ、中間案ヲ提出シタ、然ルニ此案ニ付テモ種々ノ議論ガ出デ、結局起草委員會ニ掛ケルコトニ成ツタガ、起草委員會デモ未ダ何等ノ成案モナイ、自分ノ考デハ期限ノ問題ニ付テハ、「十九人委員會ガ共同委員會ニ對シ、同委員會ニ於テ事態考察ノ上、多數決ニ依リ日本軍ノ撤收期限ヲ決定セムコトヲ勸奨ス」ルコト、シタク「リコンメン」案ニ據ルベキデ、同案ハ四國公使ニ於テモ「リーゾナブル」ト認メテ居ルノダカラ、之ヲ採用スルノガ當然ダト應酬シタ處、「ベ」外相ハ同案デハ平和狀態ノ恢復ヲ誰ガ判斷スルカ不明故、今ノ十九人委員會ノ空氣デハ到底、之ヲ受付ケル模様ハナイト答ヘタ、筆者ハ同案ハ我方ノ希望デ成立シタノデハ無イカラ、其削除ハ日本ノ寧ロ歡迎スル所ダガ、本件ニ付十九人委員會ガ餘リ内容ニ立入ツテ具體的文句ヲ採用スルト、日本ハ之ヲ拒絕スル外ハナイ、又假令「リコンメン」様式ノ案デモ、一種ノ道義的義務ヲ負ハサレコト、ナルノデアアルカラ、上海問題ニ付十九人委員會ガ「リコンメン」スル先例ヲ日本ガ受入ルレバ、滿洲問題ニ付テモ事毎ニ「リコンメン」サレル虞ガアリ、日本トシテ堪エ得ヌ事態ヲ醸成スル危険ガアルカラ、此點ハ篤ト考慮シテ貰ハネバナラヌト縷述シタラ、「ベ」外相モ其ク了解シタ様ニ見受ケラレタ。

東京來電

是ヨリ先キ今迄ノ壽府ノ模様ヲ我務外省ニ通電シタノニ對シ、東京カラ多數ノ電報ガ、來タガ其内デ一番重要ナノハ左ノ來電デアル。

一、十六日十九人委員會ノ結果ハ「レファーマツク」ヲ趣旨トシ居ル次第ニテ、我方ニ取リ比較的有利ト認メラレ、出來得ル限り之ヲ採用シタキ考ナリ、然ルニ元來十九人委員會ハ停戰條件ガ三月四日ノ總會決議ニ牴觸セザルヤ否ヤヲ監視スルニ止マリ、一々其ノ具體的條件ヲ審議決定スベキモノニ非ザルコト貴電ノ通りナリ而シテ、既ニ同委員會ニ於テ停戰會議ノ今日迄ノ成果ガ、三月四日ノ總會決議ニ合致スルコトヲ認メ居ル以上、更ニ進ンデ一々ノ停戰條件ニ付、訂正又ハ註釋ヲ爲スベキ筋合ニアラズト存ズ、右ハ實ニ主義上ノ根本原則ニシテ、常ニ之ヲ念頭ニ置キ處理スルヲ要スベク、此點ハ此上トモ篤ト議長、事務總長等ノ注意ヲ喚起シ置クヲ要ス。

二、叙上ノ見地ニ基キ、諸問題ニ對スル當方ノ意嚮ヲ左ニ申進ス。

(一) 十九人委員會ニ於テ上海停戰會議ノ成果ガ三月四日總會決議ニ合致スルモノナルコトヲ認メ、且ツ右會議ノ再開及成功ノ爲メ關係四國ニ對シ、其出先代表者宛發電方ヲ請求スルコトハ、我方ニ於テ何等異存ナシ。

(二) 撤收期限ニ關スル「ランブソン」案ヲ削除スルコトハ、我方トシテ實質上ハ寧ろ之ヲ歡迎ス、尤

モ右「ラ」案削除ノ件ハ、上海ニテ協議決定スベキモノニシテ、十九人委員會ノ決議中ニ、同案ヲ削除スベシト云フガ如キコトヲ掲載スルニ於テハ、前記根本原則ニ反スルノミナラズ、將來同委員會ガ停戰條件ニ對シ、不當ノ干涉ヲ試ムルヲ備ヲ作ルノ虞アリ。

(三) 十九人委員會ニシテ「ラ」案削除ノ代リトシテ、共同委員會ヲシテ日本軍ノ「フアーザー、ウキスドローワル」ガ可能ナリヤ否ヤヲ決セシメントスルガ如キ意嚮ナリトセバ、是亦前記根本原則ニ反スル措置ニシテ我方ノ承認シ得ザル所ナリ、從ツテ當事國一方ノ決定ニノミ委スコト能ハズト云フガ如キ文句ヲ挿入スルコトハ、統帥權ノ問題ニモ牴觸スル虞アリ、甚ダ面白カラザル所、「イマンス」議長ノ云フガ如ク第四附屬書ニテ、撤收ニ付テハ共同委員會ガ之ヲ「サーチファイ」スルコト、成リ居ルニ付本件ハ之ヲ同委員會ニ一任スルコト等ヲ決議ニ掲記スルハ、何等ノ實益ナキ一方、我方トシテハ情報供給ニ關シ十九人委員會ヲ満足セシムル爲、後掲(四)ノ如キ便法ヲ考慮シタル次第ニモ願ミ、本件「イ」議長ノ申出ハ、「ドロップ」、スルコト、致シタシ。

(四) 十九人委員會ガ共同委員會ニ對シ狀況報告ノ提出ヲ求ムルノ件ハ(イ)我方ニ於テ三月十一日總會決議ノ拘束力ニ付留保シ居ルコト、(ロ)十九人委員會ガ共同委員會ニ對シ、直接前記ノ如キ要求ヲ爲ス權限ヲ有セザルコト等ニ願ミ、其儘ニテハ同意シ難キモ、共同委員會ニ代表者ヲ有スル友好四國ヨリ之ヲ供給スル建前トスルニ於テハ異存ナク、十九人委員會決議中ニ掲記スルコトセバ、「共同委員會ニ代表者ヲ有スル友好四國ニ對シ、共同委員會ガ其職掌上當然有スル一般狀況ニ關スル情報ヲ、其代表者ヲ

通シテ入手シタル上、之ヲ聯盟ニ提供セムコトヲ要請ス、ト云フガ如キ趣旨トセバ差支ナシ。

(五) 豫期セザル重大事突發シタルトキハ、兩當事國ハ何時ニテモ之ヲ聯盟ニ通知スル自由アリトノ趣旨ヲ、決議中ニ挿入スルコトハ異存ナシ。

議長及事務總長トノ會談

「ベネシユ」外相ト會談後筆者ハ聯盟事務局ニ「イマンス」議長ヲ往訪シ、前記來電ノ趣旨ヲ述ベタ後、共同委員會ノ情報供給ニ付テハ日本ハ斯克ノ如キ様式ヲ希望ストテ、來電二ノ(四)末段括弧内ノ案ニ基イテ作成シタ佛文「テキスト」ヲ手交シタ、「イ」議長ハ一讀ノ上、共同委員會ヨリ直接聯盟ニ報告ヲ提出シテハイケヌノカト聞イタ故、元來共同委員會ニ參加スル四國代表者ハ各々其本國政府ノ訓令ニ基イテ行動スル者デ、又其中ニハ聯盟ト關係ナキ米國ノ代表者モ居ル、且ツ此種報告ノ提出ハ條文作成ノ際全然豫見シナカツタ事柄デアル、是等種々ノ見地カラ直接聯盟ニ報告ヲ提出サセズ、今迄ノ成行ヲ尊重シテ、各關係國政府ニ提出サセ、右政府ヨリ之ヲ聯盟ニ通告スルコト、シ、斯克シテ同一ノ結果ヲ得セシメントスル日本側ノ妥協案ダト説明シ、其他種々意見ノ交換ヲ行ツタガ議長トノ談話デ、十九人委員會ニ於ケル報告案ノ決議ハ多數決ニ依ルト云フコトヲ、其決議中ニ加ヘントシタノハ、上海協定案ノ字句ガ多少明晰デナカツタノト、國際聯盟デハ規約ノ規定上、手續問題等特別ノ場合ヲ除ク外、決議ハ全員一致タルヲ要スルコト、成ツテ居ル爲メ、之レガ先入主トナツテ協定案ヲ讀ミ違ヘタモノデ、又之レニ關聯シ撤收時期決定方法ノ問題ガ起リ、

現在デハ此終リノ問題ガ十九人委員會討論ノ焦點デアルコトヲ知ツタカラ、筆者ハ今迄自分ノ了解シ又當方デ信ジテ居ル所デハ、第四附屬書共同委員會決議ノ方法ニ關シテハ、總テ多數決ニ依ルノデ、若シ全員一致制ヲ採用スレバ利害ヲ異ニスル兩當事國モ加ハツテ居ル故、決議ノ成立ハ非常ニ困難デアル、又共同委員會ハ第四附屬書ニ依リ、第一條乃至第三條ニ付權限ヲ有シテ居ルカラ、此以外ニ何モ附加スル必要ハ無イ様ニ思ハレルト説明シタ處、議長ハ之ハ頗ル耳寄りノ話ダ、然ラバ共同委員會ノ決議ハ總テ多數決ニ依ルトノコトヲ、日本ノ了解トシテ披露シテ可ナリヤト問フタカラ、若シ決議案中ニ此事ヲ記入スル場合ニハ、其案文ヲ得テ一應之ヲ日本政府ニ取次ダ上ニシタイト答ヘテ置イタ。

筆者ハ次デ事務總長ト會見シ、議長ニ述ベタト同様ノコトヲ繰返シタガ、事務總長ノ質問モ亦議長ノト大同小異デアツタ。此日(昭和七年四月十九日)午後ノ十九人委員會ハ決議案ヲ作り、其直後筆者ハ事務總長ヨリ之レガ交付ヲ受ケタガ、是等ノ經緯ヲ闡明スル爲メ、左ニ事件ニ關係深キ上海協定案、「イマンス」議長決議案及十九人委員會決議案ノ翻譯ヲ掲ゲル。

四月十一日ノ上海協定原案

第一條 日支兩國ノ當局ハ既ニ戰闘中止ヲ命令シタルニ依リ、……日ヨリ停戰ガ確定セラル、コト合意セラ
ル、雙方ノ軍ハ其統制ノ及ブ限り、一切ノ且ツ有ラユル形式ノ敵對行爲ヲ停止スベシ。停戰ニ關シ疑ヲ生
ズルトキハ、右ニ關スル事態ハ參加友好國ノ代表者ニ依リ確カメラルベシ。

第二條 支那軍隊ハ本協定ニ依リ取扱ハル、地域ニ於ケル正常状態ノ回復後ニ於テ、追テ取極アル迄、其現駐地點ニ止マルベシ。前記地點ハ本協定第一附屬書ニ掲記セラル。

第三條 本協定第二附屬書ニ規定セル撤收計畫ニ従ヒ、日本國軍隊ハ一九三二年一月二十八日ノ事件前ニ於ケルガ如ク、共同租界及虹口方面ニ於ケル租界外擴張道路ニ撤收スベシ。尤モ收容セラルベキ日本國軍隊ノ數ニ鑑ミ、若干ハ前記地域ニ隣接セル地方ニ、當分ノ間駐屯セシメラルベキモノトス。

前記地方ハ本協定第三附屬書ニ掲記セラル。

第四條 相互ノ撤收ヲ認證スル爲メ、參加友好國ヲ代表スル委員ヲ含ム共同委員會ヲ設置スベシ。右委員會ハ又撤收日本國軍ヨリ交代支那警察ヘノ引繼ノ取運ニ協力スベク、右支那警察ハ日本國軍ノ撤收スルトキ直ニ引繼ヲ受クベシ。

右委員會ノ構成及手續ハ本協定第四附屬書ノ定ムル通りナルベシ。

第五條 本協定ハ其署名ノ日ヨリ實施セラルベシ。

本協定ハ日本語、支那語及英吉利語ヲ以テ作成セラル、意義ニ關スル疑ヒ又ハ日本語、支那語及英吉利語ノ本文ノ間ニ意義ノ相違アルトキハ、英語ノ本文ニ據ルベシ。

第一附屬書

本協定第二條ニ定ムル支那軍隊ノ地點左ノ如シ。

(未定)

右ニ關シ疑ヲ生ズルトキハ、問題ノ地點ハ共同委員會ノ請求ニ依リ、共同委員會ノ委員タル參加友好國ノ代表者ニ依リ確メラルベシ。

第二附屬書

第三附屬書ニ示サル、地方ヘノ日本國軍隊ノ撤收ハ、本協定ノ實施ヨリ一週間以内ニ開始セラルベク、且ツ撤收開始ヨリ四週間内ニ完了セラルベシ。

第四條ニ依リ設置セラルベキ共同委員會ハ、撤收ノ際引揚グ得ザル患者又ハ傷病動物ノ看護及其後ノ引揚ニ付、必要ナル措置ヲ講ズベシ。右患者又ハ傷病動物ハ、必要ナル衛生人員ト共ニ、之ヲ其現在地點ニ殘置スルコトヲ得、支那當局ハ右ニ對シ保護ヲ與フベシ。

日本國政府ノ爲スベキ宣言案(四月九日ノ「ラングソン」案)

上海内外ノ地方狀況ガ常態ニ復スルヤ否ヤ―日本國政府ハ該地ノ狀況ガ六個月以内又ハ之ヨリ速カニ常態ニ復スルコトヲ希望ス―日本國軍隊ハ一九三二年一月二十八日ノ事件前ニ於ケルガ如ク、共同租界及虹口方面ニ於ケル租界外擴張道路ニ、更ニ撤收セラルベキコトヲ、日本國政府ハ此機會ニ宣言ス。

第三附屬書

本協定第三條ニ定ムル地方左ノ如シ

(未定)

右ニ關シ疑ヲ生ズルトキハ、問題ノ地方ハ共同委員會ノ請求ニ依リ、共同委員會ノ委員タル參加友好國ノ

代表者ニ依リ確メラルベシ。

第四附屬書

共同委員會ハ十二名ノ委員、即チ日支兩國ノ政府並ニ三月四日ノ國際聯盟總會決議ニ從ヒ商議ニ助力スル友好國ノ代表者タル米國、英國、佛國、及伊國ノ支那駐劄外交代表者ノ各ノ代表者タル文官及武官各一名ヲ以テ構成セラルベシ。共同委員會ノ委員ハ其隨時必要ト認ムル數ノ補助員ヲ、委員會ノ決定ニ從ヒ使用スベシ。手續ニ關スル一切ノ事項ハ委員會ノ裁量ニ委ネラルベク、委員會ノ決定ハ多數決ニ依リテ爲サルベク議長ハ決定投票權ヲ有スベシ。議長ハ委員會ニ依リ參加友好國ヲ代表スル委員中ヨリ選出セラルベシ。委員會ハ其決定ニ從ヒ、其最良ト認ムル方法ニ依リ、本協定第一條、第二條及第三條ノ實行ヲ看守スベシ

「イマンス」議長決議案

三月四日ノ總會決議ハ戰鬪ノ終熄ヲ決定的ニ爲シ、且ツ日本軍ノ撤收ヲ處理スル爲メ協定スル目的ヲ以テ上海租界ニ特殊利益ヲ有スル列強ノ陸、海軍憲及文官ノ協力ニ依リ、日支兩國ノ代表者ガ交渉ヲ開始セムコトヲ推奨セルニ因リ。

前記交渉ノ進行又ハ右協定ノ履行ニ關シ重大ナル困難起リタル場合ニハ、該交渉ニ代表者ヲ出タセル諸國ハ、總會ノ名ニ於テ且ツ其監督ノ下ニ職務ヲ行使スル特別委員會ニ、右ノ困難ヲ指摘スル權利ヲ有スルニ因リ。

三月四日ノ總會決議ニ於テ豫見セル協定ハ現地ニ非ザレバ締結サレ能ハザルニ付、特別委員會ハ交渉員ニ代位スベキモノニ非ザルニ因リ。

特別委員會ハ交渉ガ三月四日ノ決議ニ從ヒ繼續セラルベキコトヲ勸奨スルノ義務アルコト、及該交渉ノ進捗ハ右決議ニ背反スル條件ヲ兩當事國ノ一方ガ強要スル爲メニ障害ヲ受クベキモノニ非ザルニ因リ。

特別委員會ハ同會ニ通報セラレタル休戰案ノ各條ヲ諒承シ、此等諸條ガ右決議ノ精神ニ一致スルコトヲ確認シ。

協定案第三條ニ依リ日本國ガ其軍隊ヲ一九三二年一月二十八日ノ事件前ニ於ケルガ如ク租界及虹口方面ニ於ケル租界外擴張道路ニ撤收スルヲ約束セルコトヲ特ニ確認シ。

此撤收ガ第三條ノ附屬書ニ規定サル、態様ニ從ヒ最初ノ撤收後、出來得ル限り速カニ行ハルベキコトハ三月四日總會決議ノ精神並ニ日本國政府ノ聲明ニ一致スルコトヲ宣言シ。

又協定案ハ中立國ノ委員ヨリ成リ、相互ノ撤收ヲ認證シ、且ツ撤收日本軍ヨリ直ニ引繼ヲ受クベキ交代支那警察ヘノ引繼ノ取運ニ協力スベキ共同委員會ノ設置ヲ豫定シ居ルノ事實ヲ諒承シ。

共同委員會ハ其決定ニ從ヒ其最良ト認ムル方法ニ依リ、第一條、第二條及一月二十八日事件前ノ位置ニ日本軍ノ撤收ヲ豫見スル第三條ノ實行ヲ看守スル任務ヲ有スルコトヲ満足ヲ以テ諒承シ。

兩當事國ガ速カニ妥結スル爲メ、目下中止サレ居ル交渉ヲ再開スル様、右兩國ニ要請セムコトヲ、上海租界ニ特殊利益ヲ有スル政府ニ懇請シ。

協定案ノ規定ニ從ヒ設置サルベキ共同委員會ガ、隨時且ツ如何ナル場合ニ於テモ毎月一回、協定ノ最終的履行ニ至ル迄、事態ニ關スル報告ヲ特別委員會ニ提出セムコトノ希望ヲ表明ス。

四月十九日十九人委員會作成ノ決議案

- 一、三月四日及十一日ノ總會決議ハ(以下議長案第一項ニ同シ)
- 二、三月四日及十一日ノ總會決議ニ於テ豫見セル協定ハ、現地ニ非ザレバ締結サレ能ハザルニ付、特別委員會ハ交渉員ニ代位スベキモノニ非ズト雖モ、前記交渉ノ(以下議長案第二項ニ同シ)
- 三、交渉ハ前記總會決議ニ從ツテ行ハルベク、兩當事國ノ一方ハ該決議ニ背反スル條件ノ強要ヲ主張シ得ザルニ因リ。
- 四、特別委員會ハ同委員會ニ通報セラレ、且ツ兩當事國ニ依リテ承諾サレタル休戰案ノ諸條ヲ悉了シ
- 五、右諸條ハ該決議ノ精神ニ一致スルコトヲ信ジ。
- 六、(議長案第六項ト同文)
- 七、右ノ撤收ガ短期間内ニ行ハル、コトハ、三月四日及十一日總會決議ノ精神ニ逼フモノナルコトヲ宣言シ。
- 八、三月四日ノ決議ハ日本軍ノ完全ナル撤收ナキ限り、完全ニ履行セラレザルコトヲ宣言シ。
- 九、(議長案第八項ト同文)

一〇、(議長案第九項ト同義但シ「日本軍ノ撤收ヲ豫見スル第三條」ノ撤收ニ「完全ナル」ト云フ形容詞ヲ加フ)。

一一、特別委員會ハ協定案第一條、第二條及第三條ノ實行ヲ看守スルノ任務ヲ有スル委員會ノ權限ハ、該案第四附屬書ニ於テ定義セラレ居ルガ如ク、兩當事國一方ノ請求ニ依リ、日本軍ノ完全ナル撤收ガ合理的ニ行ハレ得ベキ時期ノ到來セルコトヲ宣言スル權限ヲ含ムトノ意見ニテ。

共同委員會ノ一切ノ決議ハ、全員一致ノ票決アルコトヲ希望スルモ、之ヲ得ラレザル場合、該決議ハ議長ガ決定票決權ヲ有スル多數決ニ依リ、第四附屬書ノ規定ニ從ヒ有効ニ成立スルコトヲ認識シ。

一二、當事國ガ速カニ妥結スル爲メ目下中止サレ居ル交渉ヲ再開セムコトヲ、兩當事國ニ要請シ、上海租界ニ特殊利益ヲ有スル政府ニ、右ニ關シ其協力ヲ續行セムコトヲ懇請シ。

一三、三月四日及十一日決議ノ豫見セルガ如キ解決ニ達セザル場合ニハ、問題ハ必然總會ニ再同セラルベキコトヲ明確ニ指摘シ。

一四、上海租界ニ特殊利益ヲ有スル列強政府ニ對シ、設置セラルベキ共同委員會ガ其職務上有スル情報ニシテ、同委員會ノ代表者ヨリ右政府ニ提供セラル、モノヲ、國際聯盟ニ移牒セムコトヲ懇請ス。